



テレジンを語る会いばらき おたより

# モティール

No.07 2013.10発行

<http://teresien.ibaraki.jimdo.com/> ※モティール・・・チェコ語で蝶

\*\*\*\*\*

## 『そこに僕らは居あわせた』 ～語り伝える、ナチス・ドイツ下の記憶 読書会のご案内

ナチスの支配が終わった時、作者グードルン・パウゼヴァングは17歳でした。「軍国少女」から一転して価値転換を迫られた世代。あの時代、普通の人びとが「個人」よりも「全体」を優先し、ある意思を持った集団にのみこまれていった。子どもたちは学校でも家でもナチスの思想を教えられ植え付けられ、信じ込まされていた。その時代に、たまたま居合わせたというだけの事ではない大きな意味を持った物語があった。この本は、自らの体験や実際に見聞きしたエピソードから生まれた20の物語。いったい、何を吹き込まれたというのでしょうか？

どの物語も、当時10代だった子どもたちが言葉を発しています。老人が、孫世代の子どもからの問いかけや、詰問に遭い、辛くて思い出したくないことも記憶の中から引きずり出され、思わず告白してしまう場面、今になってその真相に気づかされる。老人の目から涙があふれ出、問いつめた孫は祖母の心の動揺と悲しみを知る。

国家がいかに若者の理想と純粋な心を利用し、他者から“自国を守る”ことが“当然の権利”として国民を鼓舞し“優秀な帝国臣民”として破壊への道へと突撃させたか。それは、日本もドイツも同じだった。

人間を踏みにじる政治が二度と行われてはならない。昔ヨーロッパで起こった不幸な出来事というわけではない、人類の負の歴史として、人は過去を学び知り、そして未来を築いていこう、という今年86歳のパウゼバンクの伝言のようです。『人生終盤は勇敢でなくちゃね』

この本を元に、平和のこと人間のこと、家族や学校のこと、何でも話をしましょう。本を読んでなくても大丈夫です。ぜひお立ち寄りください。



「そこに僕らは居あわせた」  
グードルン・パウゼヴァング著  
高田ゆみ子訳 みすず書房

\*\*\*\*\*

日時：11月16日(土)

\* プレイバントとして14：00からホロコースト関連のフィルムを上映します

15：00～ 大西陽子さん(十里舎おはなしでんでん)の朗読

話題づくり・みんなでおしゃべり+おやつ

場所：つくば市市民活動センター(つくば市吾妻1-10-1 アイアイモール1F)

資料・おやつ代：500円 問/TEL/FAX 029-823-3484(関谷) 029-856-2286(長田)

\*\*\*\*\*

## テレジンの子どもたちから～ 連続講座とパネル展

2013.3月～5月



3月（土浦ウララ）4月（土浦一高旧本館）と林幸子さんによる講座を行い、テレジン収容所でナチスに隠れて子ども達が出していた雑誌『VEDEM』と収容所の子どもたち、編集長のペトル・ギンズ君と仲間達、生き残った子どもたちは戦後どうだったのか、子ども達を書いた詩の朗読や林さんと交流のあった生還者の一人コトウチュウさんの話など、今の私たちの生き方を考え直すきっかけをいただきました。

大人たちは過酷な状況下でも、子どもたちに文化と教育を与えた。なぜ？「人間の優しさを子どもに植え付けるための教育であってほしい」次々と質問が出され内容も深まり心温まる教室風景でした。

---

5月11日（土）


市民ギャラリー内で石岡史子さんのお話会

「生きるための優しさと強さを育む」

～「ハンナのかばん」と

収容所を生きぬいた少年ジョージの物語～

---



土砂降りの雨の中、60名を越える大勢の人が集まってくれました。遠くから電車を乗り継いでやってきた人も。お話はチェコクイズから始まり、小学生と小さな子にもわかりやすく、お話にグングン引きこまれてしまいます。人間の持っている善と悪の両極にあるもの、心の中にある恥ずかしい部分を知る。「犯人さがし」や「ポイント集め」のエピソードと共に少年ジョージの気持ちになって語る。人間らしく生きるためにジョージがやった小さなこと、それは、木切れを使ってジャガイモを食べること。人間性を奪われた時それを取り返す抵抗でもある。

ナチスが成立して今年で80年、歴史と向き合うドイツの試みが進められている。いいことも悪いことも全部含めて文化として捉える「記憶の文化を育む」歴史認識。忘れてはいけない、過去と向き合おう！未来に伝えるための工夫がベル

リンの街を歩くと出会える。ポールに猫のイラスト、ベンチ、ハサミ、ユダヤ人が禁止されたもの街のあちこちでアート表現。未来は過去の中にある、憎しみからは何も生まれず、悪者探しからは何も得られない。

5年生の男の子の感想『ぼくは人にやさしくなれる強いひとになりたい』という言葉。『優しさ』と『強さ』とは相対的なことではなく互いに内包する力であると気づきました。

1号室でのジョージの場所は入口近く3段ベッドの上の段、隣はクルト・コトウチュウ君でした。林さんのお話に何度も登場し戦後もプラハに住んでいたコトウチュウさん。自治会の2代目の委員長でギンズ君と一緒にVEDEMを編集していました。

ぜひ学校の授業に取り入れて欲しい内容です。

## パネル展

---

『生きのびた少年ジョージの物語』

『プラハ・テレジン・アウシュヴィッツ』

『VEDEM』

5月8日～12日 つくば市民ギャラリー

---



来場者395人

◎『生きのびた少年ジョージの物語』全76枚。

◎『プラハ・テレジン・アウシュヴィッツ』は、林幸子さんが撮られた写真のパネル展示。プラハの石畳やブルタヴァ川の堰の音、お母さんを想い、子ども達はどんなに切ないことだったか。VEDEMIに書かれた詩のパネルと共に展示。

◎『VEDEM』L417・1号室で毎週金曜日に発行されていた秘密の雑誌。解説と表紙や挿絵・文章など。

VEDEMの編集長ギンズ君が描いた「月から見た地球」の絵と、その絵を持ってコロンビア号に乗り宇宙に消えたラモン宇宙飛行士のパネルも展示された。

布絵作家の皆川末子さんからテレジンの作品を2点展示させていただきました。

その他、カナダ、アメリカで発行された記録集や画集、テレジンの資料、絵本。ブルンジバル、アンネの日記、アウシュヴィッツの音楽家など、DVD常時上映。折り紙や切り絵を楽しむ人やゆっくり読書の人など、ギャラリー内の隅々には毎日きれいなお花が活けられ、くつろいでいただけましたようです。

林さんがお持ちくださった「アンネのバラ」は、アンネ・フランクという少女のことを静かに訴え続けていました。

◎後援：茨城県、土浦市、つくば市、茨城県教育委員会、土浦市教育委員会、つくば市教育委員会、つくば子ども劇場

◎協賛：常総生活協同組合

◎助成：アイラブつくばまちづくり補助金

◎資料・写真提供：林幸子、石岡史子、NPO法人ホロコースト教育資料センター（kokoro）、新評論、ポプラ社、平凡社

---

## はるもにえコンサート：ジョージのパネル展

---

7月23日、つくばカピオホールで行われた「はるもにえコンサート～チェコの歌とお話のひとつとき～」ロビーでは小展示会が開催された。テレジン収容所に没したドボルジャークの弟子ルドルフ・カレルの紹介パネルと銃殺刑に処せられたチェコ文学界のヴラジスラフ・ヴァンチュラのパネル、そして「生きのびた少年ジョージの物語」のパネル展。パネル展は2時から入場自由だったので親子連れや散歩の途中の人など大勢の人が来てくださった。





アンケート

## 「テレジンの子どもたちから」

～連続講座とパネル展～

市民ギャラリー内お話し会 石岡史子さんのお話

2013年5月11日 “生きるための優しさと強さを育む”

～「ハンナのかばん」と収容所を生きぬいた少年ジョージの物語～

\*\*\*\*\*

◎「憎しみを希望に変えて伝えていく」とても心に響くメッセージでした。「優しさを伝える強い心をもつ」心に言い聞かせたいメッセージです。ありがとうございました。

も子どもも思いやりのある心を持つ社会になるよう、考える大事な時間を本日過ごすことができ、感謝いたします、ありがとうございました。(40代女性)

◎ハンナのかばんからハンナの短い人生と生きのびた兄ジョージのその後の人生を詳しく調べて、ホロコーストの悲劇が身近に感じられるようにして下さったことに心から感謝します。戦争の時代の実態をぜひ次代に語りついでほしいと思います。問いかけながら話を進めて下さって、わかりやすかったです。テレジンの話は、人権や命の尊さがテーマで、戦争がテーマではないと思いますが、欲を言えば第二次大戦の構図(日独伊 vs 英米仏中 etc.) を最後に加えて、決してこれが遠い次代の遠い国の話ではないこと、自分達にもふりかかるかもしれないこと(加害者になることも)を子どもたちに一言でも伝えていただけないかと感じました。平和やいのちの問題は常に「今」のことだからです。ジョージさんの思いにもつながるのではないかと思います。石岡さんのお話だけでなく、会場の方々の感想が意義深いものばかりで、感じさせられました。(50代)

◎ジョージさんがお元気で、日本の若い伝道者に感動と元気を与えてくださっていることがうれしいです。憎しみからは何も生まれないという言葉を重ねただけの人生とおもいます。

◎歴史から学ぶ大切さを感じた。人に希望を伝えることはなかなか出来ないけれど、自分の心の中には希望を常に持つような強い意志を持ちたいと思う。

◎私は小さな無力な子どもが逆らえない暴力で死んだり痛めつけられるのに憤りを感じます。戦争もイジメも交通事故も犯罪です。その子の未来はどうだったのか考えています。次回もまた行きたいです。(50代男性)

◎ありがとうございました。子どもたちの未来のために歩んでいきましょう♡

◎歴史に目を向けることが大切だと思いました。豊かな心を目指して、子どもを大切にする大人になっていきたいです。貴重なお話を聞かせていただき、石岡さん、本当にありがとうございました。外は雨ですが、心に光が射しているような気がします。これからも問題意識をもちつつ、進んでいきたいと思っています。小さいお子さんも来ていて、とても素晴らしい空気が漂っていました。チェコクイズも面白かったです。いろいろな方々の魂との宇宙との交信をずっとしていきたいです。(30代女性)

◎ちょうど20年前にベルリンで1年間住んでいました。その時、TVで毎日のように「ホロコースト」というドラマ(長いドラマです)をやっていて、繰り返し見ていました。収容所では、ほんのちっちゃな偶然で、生と死が常に隣合わせであったことでしょうか。偶然に、取るに足らない原因で撃ち殺された人、偶然に生きのびた人・・・ハンナのかばんが残ったり、Vedemが残っていたり、ジョージの日記がのこっていたり、ほんの小さな縁で現在につながっているとしたら、その縁は貴重な星です。今日、石岡さんの話をききに、ここに集まった人たちも何かの縁、この縁の、この光を大切にして、生きることに意味を考えていきたいです。(50代女性)

◎ジョージが16歳の時の様子を聞き、ちょうど同じ年の息子にも伝えたいと思います。大人